

未来社会創造事業 探索加速型探索研究
事後評価結果

1. 領域

「個人に最適化された社会の実現」領域

2. 重点公募テーマ

他者とのインタラクションを支えるサービスの創出

3. 研究開発課題名

親子相互交流療法を活用した親子のウェルビーイング実現技術

4. 研究開発代表者名（機関名および役職は評価時点）

新妻 実保子（中央大学理工学部 教授）

5. 評価結果

評点： A 優れている

総評：

本研究開発課題は、親子相互交流療法（PCIT: Parent-Child Interaction Therapy/Training）を基盤とする人工知能を搭載したエージェントロボットの開発により、家庭内での親子関係の最適化やインタラクションの質向上を図り、さらに、親子関係の改善とコミュニケーションの円滑化を目指すものである。

探索研究期間では、エージェントロボットと子どもとの接触の有無で生じる差異を検証し、その結果、家庭にロボットが受け入れられるには身体的接触が重要であることを示唆した。また、ロボットが長期滞在することで、親子関係の改善による親密性や子どもの向社会性の向上に寄与する可能性があるという新たな知見が得られ、ロボットの家庭導入の可能性とその有効性を示した。さらに、二者間（共同作業者と親子との間、および作業者と監督者との間）の主観的/客観的メンタル状態の推定技術についても基礎的な検討がなされ、成果も得られた。

今後は、PCIT にとらわれず、本格的なロボット技術の家庭内でのあり方を探求し、未来社会の創造に貢献していただくことを期待する。

以上